

滋賀県トライアスロン協会 沿革

1985年(昭和60年)5月に、任意団体として滋賀県トライアスロン協会を設立。

この年の6月に、滋賀県主導で彦根、長浜地区を主な会場として日本初のアイアンマン大会(ロングディスタンストライアスロンレース) アイアンマンジャパンびわ湖大会(スイム3.9km、自転車180km、マラソン42.195km)が開催され、世界中から多くの選手が参加した。同年4月には沖縄県宮古島でも長距離トライアスロンレース(ストロングマン大会)も開催され、一気にトライアスロンブームに火がついた。

1994年(平成6年)には、全国組織として設立された日本トライアスロン連合(JTU)に都道府県協会として加盟。

滋賀県の競技者人口(トライアスリート)は飛躍的に増加し、長浜市で練習会、高島町(現高島市)でショートのトライアスロン大会、今津町(現高島市)でキッズの大会が開催されるなど一大ブームが到来し、多くの協会登録会員を得た。

アイアンマンジャパンびわ湖大会は13回(1998年)で終止符が打たれた後の会員数は減少の一途をたどり、トライアスロンブームも去ったかに思われたが、2000年のシドニーオリンピックで正式種目となり、全国各地でスタンダードタイプ(スイム1.5km、バイク40km、ラン10km)のレースも増え、協会としても安全に楽しく大会に参加するため、指導者養成、審判員養成、初心者・初級者対象の講習会、レベルアップのための練習会を数多く開催しトライアスロンの普及・発展に尽力した。

2021年のパラリンピック東京大会で銀メダルを獲得した宇田秀生選手(滋賀県甲賀市)も当協会の練習会を見学後トライアスロンに魅了され、練習を重ねて一気に頭角を現し、世界的な選手になった。

滋賀県協会としては、2015年(平成27年)に新たに、びわ湖トライアスロン in 近江八幡大会を地元近江八幡商工会議所はちまん青年経営者会(青経会)を中心に各種団体と協力して開催にこぎつけた。この第1回から障害者にもレースを楽しんでもらおうと、パラの部をはじめ、パラジュニアの部も設けて開催した。

さらには、パラトライアスロン普及のために年間数回のパラトライアスロン練習会も開催している。小中学生を対象にした練習会も開催し、子供から高齢者まで幅広い年代で楽しんでもらえるように努めている。

平成28年度の岩手国体では、トライアスロン競技が公開競技から正式競技となり、成年男子で5位入賞、天皇杯6位を獲得した。さらに、令和4年の栃木国体では、高島市出身の内田弦大選手(滋賀県スポーツ協会)が男子2位、天皇杯4位を獲得、令和5年の鹿児島国体では、同じく内田弦大選手が優勝し、天皇杯2位を獲得した。

県内においても世界で活躍できる若手有望選手もおり、2025年(令和7年)の第79回滋賀国民スポーツ大会に向けてさらに選手の発掘・育成が急務となったため、組織としての強化、充実、社会的信用度の向上のために、2017年(平成29年)2月6日には、一般社団法人化を実現し、今日に至る。

令和6年2月

一般社団法人 滋賀県トライアスロン協会
会長(代表理事) 田島 一成
理事長(業務執行理事) 小畑 政光
事務局長(理事) 原田 雄二